



JASDAQ

平成 24 年 8 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社C&Gシステムズ  
代表者名 代表取締役社長 塩田聖一  
(JASDAQ コード 6633)  
問合せ先 取締役 管理統括部 部長  
大野 聡太郎  
(TEL. 03-6864-0777)

## 平成 24 年 12 月期第 2 四半期業績予想と実績との差異および 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 24 年 5 月 15 日に公表しました平成 24 年 12 月期第 2 四半期累計期間（平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日）の業績予想数値と、本日公表の同実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また最近の業績動向を踏まえ、平成 24 年 2 月 14 日に公表しました平成 24 年通期（平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日）業績予想を下記の通り修正いたしましたので併せてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 第 2 四半期業績予想と実績値の差異（平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日）

##### (1) 連結業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想 (A)	1,762	96	112	93	8円51銭
今回実績 (B)	1,766	146	166	149	13円54銭
増減額 (B-A)	+4	+50	+54	+56	—
増減率	+0.2%	+52.1%	+48.2%	+60.2%	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成23年12月期第2四半期)	1,496	61	63	25	2円32銭

##### (2) 個別業績予想

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想 (A)	1,361	64	70	6円38銭
今回実績 (B)	1,391	114	125	11円37銭
増減額 (B-A)	+30	+50	+55	—
増減率	+2.2%	+78.1%	+78.6%	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成23年12月期第2四半期)	1,278	71	41	3円75銭

### (3) 差異理由

#### ①連結業績

売上高につきましては、前回公表時の予想通り、国内製品販売が堅調に推移、また北米で展開する金型製造事業の受注が好調に推移し、前回予想を若干上回る程度となりました。利益面につきましては、当社の販管費率も改善したことから、営業利益 50 百万円、経常利益 54 百万円、当期純利益 56 百万円、前回予想をそれぞれ上回りました。

#### ②個別業績

連結業績と同様の理由であります。

## 2. 通期業績予想の修正（平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日）

### (1) 連結業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	3,210	152	164	137	12円41銭
今回修正予想 (B)	3,296	165	215	178	16円14銭
増減額 (B-A)	+85	+12	+51	+41	—
増減率	+2.7%	+8.5%	+31.1%	+30.1%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 23 年 12 月期)	3,002	130	132	75	6円82銭

### (2) 個別業績予想

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	2,764	131	112	10円14銭
今回修正予想 (B)	2,691	144	140	12円72銭
増減額 (B-A)	△73	+13	+28	—
増減率	△2.7%	+10.0%	+25.4%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 23 年 12 月期)	2,557	129	88	8円02銭

### (3) 修正理由

#### ①連結業績

平成 24 年 12 月期下期につきましては、国内製品販売が第 3 四半期に入り業績が一時的に低調となっていること、タイの洪水被害の影響からの回復が遅れていることなどから、CAD/CAM 製品販売が予想を下回る見込みである一方、金型製造事業の上期の受注状況を勘案すると、同事業が売上を補てんする見込みであることから、売上高は前回予想を 85 百万円上回ると見込んでおります。営業利益につきましては、金型製造事業の売上伸長に伴い売上原価が増加する見込みであることから、前回予想から 12 百万円の増加に止まる見込みです。経常利益につきましては、上期に取得した投資有価証券の利息が増加する見込みであることなどから、前回予想を 51 百万円上回る見込みです。四半期純利益につきましては、子会社の少数株主持分が影響し、前回予想から 41 百万円の増加となる見込みです。

②個別業績

売上高につきましては、連結業績と同様の理由であります。利益面につきましては、販管費率の改善および上期に取得した投資有価証券の利息が増加する見込みであることなどから、経常利益 13 百万円、四半期純利益 28 百万円、前回予想をそれぞれ上回る見込みです。

以 上